



第69回球磨畜産共進会育成種牛2部で名誉賞一席

信頼関係築き、つかんだ名誉賞一席

栗秋 ^{かずひろ}和弘さん 62 上里3

球 磨畜産農業協同組合が主催する第69回球磨畜産共進会が9月11日に錦町の球磨家畜市場で開かれ、栗秋和弘さんの肉牛「やすふく5」号が育成種牛2部(平成28年10月1日〜同29年5月31日生)で名誉賞一席に輝き、自身13年ぶり、4回目となる熊本県共進会への出場を決めた。

同共進会は月齢に応じた体型や品位の高さなどを競い、いかに美しい牛かを決めるもので、4年に一度、県共進会の予選を兼ねて開催される。血統だけではなく、育て方や牛への愛情など日ごろの管理の成果が出るため、郡市内の牛飼いたちがハートを燃やし、名誉をかける大会だ。

10市町村から68頭の肉牛と21の飼料が並び、県農業研究センター、畜産研究所長らが審査。栗秋さんは育成2部に2頭、経産種牛(3頭以上子を産んだ牛)の部に1頭、サイレージ(飼料)の部に1品を出し、すべてで最上位の名誉賞を受賞。育成2部では名誉賞の中でも1番となる一席を獲得した。栗秋さんは「私一人の力ではない。ツメやツノの磨き上げなど、湯前分区の皆さんに協力してもらって、手入れができた結果」とまわりの協力に感謝する。

現在栗秋さんは、妻の玲子さん



共進会で審査を受ける栗秋さんの肉牛。3頭の肉牛と飼料はすべて名誉賞を獲得

(57)と父、光喜さん(93)とともに親牛60頭を飼育。12年前にはグランドチャンピオンとして、すべての部門の頂点に立った。その翌年には、5年に一度開かれ、和牛のオリンピックとも呼ばれる「全国和牛能力共進会」に出場。当時球磨郡で初めて、本町では唯一の出場経験者だ。

栗秋さんは11月3日に大津町の熊本県家畜市場で開かれる県共進会に「やすふく5」号とともに出場する。「いい牛を育てるためには、手をかけて信頼関係を築くことが大事。牛は一生懸命手入れをすれば必ず飼い主に対して答えてくれる。共進会に出す牛すべてが、だれが見ても一席だと思えるように育てることが目標。健康で居続けて、長く牛を飼ってほしい」と意気込みを語った。